

令和8年秋 大学院医学薬学府学位記伝達式 学府長式辞

修了生の皆さん、学位取得、誠におめでとうございます。また、これまで皆さんを支えてこられたご家族の皆様、そして関係者の方々へ、医学薬学府の教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。皆さんが努力と研鑽を重ね、立派な学位論文をまとめられたことに、敬意を表します。

皆さんはこれから、さらに研究を深める方、臨床で研鑽を積む方、あるいは企業でその手腕を発揮する方など、多様な道へと歩み出されます。これからどのようなキャリアを歩むにせよ、皆さんが、大学院でいろいろな問題を解決しながら研究を進め、その成果を論理的にまとめ上げた経験は、皆さんの確かな力となり、将来を支える柱となると確信しています。

さて、皆さんの大先輩に当たる千葉大学名誉教授で作曲家の水野修孝先生をご存じでしょうか。実は5月10日に水野先生の代表作である「交響的変容」の、初演以来34年ぶりの再演があり、幸いにも演奏を聴く機会に恵まれました。この曲は、作曲に四半世紀以上をかけて、千葉大学教育学部教授の時に完成されたそうです。全曲3時間以上、作曲家の思いや技法を全て詰め込んだような巨大な熱量の曲でした。チューブラーベルが聴衆を取り囲み、合唱隊が客席の間を走り、ホール全体が渾然一体となって、悲劇から歓喜、祈りまで、極めて大きな振幅で表現する音楽を体験でき、圧倒されました。水野先生は1934年生まれですが、驚いたことに、この演奏の日に新しい交響曲第6番の楽譜を指揮者に手渡されたそうです。92歳にして、なお次の作品に向かっておられるのです。

皆さんは学位論文のために、日々努力して、データを少しずつ積み上げ、論文として構築されたと思います。巨大な交響曲も、日々の積み重ねで出来上がるのではないのでしょうか。皆さんがどのような仕事に就かれるにしろ、このように継続して積み上げていく経験は必ず生きると思います。

また、楽譜は作曲家の手を離れて、大勢の演奏家によって音になり、人々に感動を与えます。論文も、他の研究者に読まれ、実験や解析を助け、新しいアイデアを刺激します。そのようにしてサイエンスは発展してきました。このようなサイエンスのコミュニティに貢献した経験が、今後の皆さんの発展の糧になることを確信しています。

学位は到達点であると同時に、新たな出発点です。92 歳でなお新しい曲に向かう水野先生のように、皆さんもそれぞれの場所で挑戦を続け、大きく羽ばたかれることを期待しています。

改めて、修了生の皆さん、本日は誠におめでとうございます。

2026 年 9 月 28 日

千葉大学大学院医学薬学府長 眞鍋一郎

